

プーリア州、リアルな驚き～軍事要塞の地



カステル・デル・モンテ、アンドリア Photo by Regione Puglia

3,000 年以上に渡る歴史、そして深く根付いた伝統がプーリア州の特徴であり、様々な文化や異なる文明の痕跡が、城や素晴らしいプーリア建築の中に残されています。古代ローマ以前からギリシャ時代、ロマネスク様式からバロック様式に至るまで、プーリア州では異なる時代体験ができます。例えばダウニアエリアの先人たちが造った城や修道院のある北部、ローマ人により支配された中部、ギリシャ文明、その後のビザンツ帝国、ゲルマン、そしてフランス・スペインの支配により影響を受けた南部。荘厳なローマ様式の大聖堂、守備要素の高い街や威厳ある要塞が、美しい街や風景の中に広がり、また 865 km も続く海岸に沿ってあるノルマン人、スワビア王家、アンジュー家により造られた防御塔などが、栄光ある過去の痕跡を今に残しています。

「プーリアの申し子 (Puer Apuliae)」 皇帝フェデリコ 2 世が建築したこの地で最も有名な城であり州独自の宝である、アンドリアの**カステル・デル・モンテ (デル・モンテ城)** があることでプーリア州は世界にも知られています。ランが咲き乱れる野原、野草に囲まれた丘陵地帯、そしてブドウ畑とオリーブ畑の中に、1240 年皇帝フェデリコ 2 世が建築した要塞がそびえます。1996 年にユネスコ世界遺産に登録されたこの城は、中世建築の傑作とも言われています。カステル・デル・モンテは、プーリア州のシンボルの一つとなり、その神秘的な八角形の構造は、この地だけでなく、イタリアや世界中の他のすべての建造物とも明確に区別されるものです。



ボヴィーノのドゥカーレ城 Photo by Carlos Solito



モンテ・サントジャンジェロの要塞 Photo by Franco Cappellari

プーリア州の旅は、中世の城とこの地ならではの一無二の建造物の発見の連続であり、かつては自然豊かでハヤブサ狩りができる場所でした。大きな宮殿のあるルチェーラから、**ボヴィーノの荘厳なドゥカーレ城**、海の際に建つヴィエステのズヴェヴォ城、そしてダウニア地方とガルガーノ地方を 360 度見渡すことができる**モンテ・サントジャンジェロの要塞**。州都バーリにある**ノルマン・ズヴェヴォ城**、100 の扉がある王宮として知られる**ジョイア・デル・コッレ城**など、個性的な城ばかりです。



ノルマン・ズヴェヴォ城 Photo by Joe Vitone



グラヴィーナ・イン・プーリアに残る城 Photo by Pietro Amendolara

内陸のグラヴィーナ・イン・プーリアへと進むと、その丘の上からは、狩猟用として使われた城の廃墟を見ることができます。ブリンディジ県にある中世の街オリアでは、フェデリコ 2 世とブリエンヌのイオランダとの結婚式が行われた美しい城を外部からみることができます。この結婚式の様子は、8 月中頃、リオーニパレード、あるいはボルギパレードの歴史行列として再現されます。20 km の距離には、フィオレンティーノ城の考古学地区があり、ここに

残る城跡でフェデリコ 2 世が命を落とした場所とされています。

プーリア州にはその他に、カピタラータ地方、バーリ、そしてサレント地方であるターラント、マッサフラ、マンフレドニア、レッチェ、オトラント、グロッターリエ、布林ディジ、トラーニ、バルレッタ、サンニカンドロ、モーラ・ディ・バーリそしてモノーポリなどにも、数多くの城が残ります。また 865 km に渡る海岸沿いにある塔も発見することでしょう。これらの塔は、海岸から海岸へ、アドリア海からイオニア海へと続く旅に静かに寄り添い、太陽に向かい、水平線を見張っているのです。



サンニカンドロ・ディ・バーリ Photo by Carlos Solito



バルレッタ、ズヴェヴオ城 Photo by Vanda Biffani



モノーポリ、カルロ 5 世の城 Photo by Regione Puglia

おすすめ体験とスポット TOP Experience

トラーニのズヴェヴォ城

フェデリコ 2 世の意思で造られた興味深い城の中で、トラーニ城は、街の防御機能を備え海に向かって建てられています。

トラーニ城は、フェデリコ 2 世の息子マンフレディにより、エレナ・デピーロとの結婚式の舞台に選ばれ、また現在でも騎士伝説が残る魅力的な場所でもあります。特に夏の期間、城では数多くの劇が催されますが、中でもマンフレディの結婚を再現したイベントでは、かつての中世の雰囲気そのまま感じることができます。

ブリンディジのズヴェヴォ城

ブリンディジのズヴェヴォ城は、海からもそして内陸からも、双方の視点で歴史の魅力を見出すことができる場所です。

旧市街の中心に位置する城は、「土の城」としても知られ、1227 年のフェデリコ 2 世の意思により、当時の時代から遡った古い建築素材を使用して作られました。

ハプスブルク家のカルロといった、イタリアとプーリア州の歴史に特に関係する人物により、数多くの改築が行われました。そして 1519 年、カルロ 5 世の名で皇帝となり、城の構造はさらに強化されました。

第 2 次世界大戦の期間中である 1943 年 9 月から 1944 年 2 月の間、城自体はローマから逃亡してきたヴィットリオ・エマヌエーレ 3 世とエレナ女王、バドリオ元師の居所として使用され、彼らはこの地に滞在し、ブリンディジを一時的にイタリアの首都としました。

オリアのズヴェヴォ城

オリアのズヴェヴォ城は、1225 年から 1233 年の間にフェデリコ 2 世の意思により建築された素晴らしい構造を持つ城です。

石造りの巨大な宝石とも言える城は、ブリンディジとターラントとの中間地点の丘に建てられ、住民を守りました。1225 年から 1233 年の間に建てられたこの城は、その後の数世紀に渡り、王子や騎士、そして貴族により使用されました。

3 角形の平面を持ち、角には 3 つの塔があり、それぞれクアドラータの塔（四角の塔）、カヴァリエーリの塔（騎士の塔）そしてサルトの塔（飛躍の塔）と呼ばれました。クアドラータの塔は、フェデリコ 2 世の時代に遡るものですが、その他 2 つはアンジュー家の支配下にあった時代に増築されました。

城は時おり霧に覆われますが、通説によるとこれは大気現象ではなく、「オリア・フモーザ」の伝説として知られる、城建設当時のエピソードに従った現象だとされています。 **オリア・フモーザの伝説：城の崩壊を免れるためには、娘の血で城壁を塗らなくてはならない、という神託に従い命を奪われた娘。その娘の母親が、この地を呪い叫んだ言葉「オリアは霧に包まれる、私の絶望した心のような霧で包まれる」に由来するとされる。*

オトラントのアラゴン城

オトラントの城は、イタリアで最も東に位置し、サラセン人からの攻撃の記憶をとどめるために、東へと向けて建てられた要塞です。アラゴン城はオトラントの街の防御城砦であり、現在は国際的なイベントや展覧会が開かれる文化的・知的スポットとなっています。

東ローマ帝国とノルマン人との戦いである 1067 年の包囲後、激しく損壊し、修復され再構築されたものの、1480 年のサラセン人の歴史的な攻撃に際し、防御構造がさらに広がり、銃眼を備えた塔も装備されました。



オトラントのアラゴン城 ©Leonardo D'Angelo

威厳あふれる城壁の間を歩くと、アルフォンシーナの塔、ドゥケッサの塔、イッポリータの塔、通称「ダイヤモンドチップ」と呼ばれる稜堡や、革新的な防御技術が加えられた、当時の軍事建築としてもとても貴重な例である「三角の間（サーラ・トリアンゴラーレ）」など、異なる特徴的な建築を目にすることができます。

ターラントのアラゴン城

建築、歴史的価値そして海沿いという素晴らしい立地に建てられていることにより、城はターラントの美しいスポットの一つとなっています。

サンタンジェロ城（聖天使の城）とも呼ばれるアラゴン城は、ターラントの街の主要要塞であり、イオニア海の首都である旧市街と新市街地の境界線となっています。



ターラントのアラゴン城 Photo by Samuele Gallini

城自体は、15 世紀終わり頃に、アラゴン家フェルディナンドの依頼により、シエナ人建築家フランチェスコ・ディ・ジョルジョにより設計され、航海可能な運河を守るために、海の際に建てられました。防御を目的とした城にしたいという、ナポリ王の意思により、かつてビザンチンがサラセン人から身を護るために造った要塞を中心に持つ、ノルマン時代の構造の上に要塞が建築されました。特に興味深い点は防御機能を強化する広く低い塔です。ハプスブルク家の支配のもとでは牢獄としても使用された城は現在、海軍の拠点として使用され、ガイドツアー、文化的な催し、あるいはイベントなどを通して訪問することができます。

ダウンロード（英語）

[プーリア州 – 大聖堂、城、そして塔](#)

詳細情報（英語）

[プーリア州公式サイト](#)の城情報